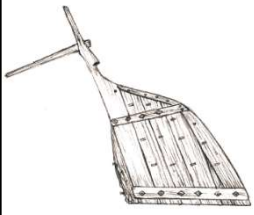


【日本といちはらのできごと】

氏名

旧石器 縄文	人々は動物や木の実、魚や貝などをとって食べていた。じょうもん縄文土器とよばれる土器で、食べ物の調理や保存をした。 いちはらでは、人々が貝などを捨てたとされる (①) がたくさん見つかっている。 	
弥生 古墳 飛鳥	力を持った王や豪族ごうぞくがあらわれ、中でも、いなりだい稲荷台1号墳で見つかった、おうし めいてつけん「王賜銘鉄剣」は、国産で銘文がほられた鉄剣で最も古いとされている。 いちはらでは、前方後円墳などの (②) が1600基以上見つかっている。 王とはだれなのか… 	
奈良	聖武天皇は仏教の力で国を治めるため、全国に国分寺をつくらせた。 いちはらには上総かずさ(③) や上総国分かずさこくぶん に じ尼寺がつくられた。 ↓七重の塔とかわら 	
平安	すがわらのたかすえのむすめ菅原孝標女は、いちはらを出発し都に旅立った。その後、いちはらでの生活などをさらしなにつき「更級日記」にまとめている。	
鎌倉	戦いに敗れた源頼朝みなもとのよりともは、安房国あわのくにや上総国かずさのくに（今の市原市など）を通っていったと言われている。鎌倉へつながる「鎌倉街道かまくら かいどう」や、飯香岡八幡宮いいが おかはちまんぐうで頼朝が植えたさかさいちようとされる「逆さ銀杏」の逸話などの「頼朝伝説」が、今も伝わる。 	
室町	戦国大名たちが、支配する土地を守るため、勢力を争った。 いちはらでは、しはい里見氏が守った姉崎地区のさとみ し椎津城跡しいづじょうあとが残る。 	
安土 桃山	江戸で生活する人々のための、たくさんの米や炭などが必要になった。 (④) という船で、江戸へ米などが運ばれた。	
江戸	明治時代になって、制度やきまりが近代化された。 それまでの寺子屋などをもとにして、多くの(⑤) ができた。	
明治	明治時代になって、制度やきまりが近代化された。 それまでの寺子屋などをもとにして、多くの(⑤) ができた。	
大正	明治時代になって、制度やきまりが近代化された。 それまでの寺子屋などをもとにして、多くの(⑤) ができた。	
昭和 平成 令和	1963年、市原市が誕生。東京湾沿いの臨海部に工場が、たくさんできたことなどにより人口が増え、1976年には20万人をこえた。	

気づいたことをまとめてみましょう（展示品の特ちょう、感想など）

	 ごだいきせん かじ 五大力船の舵
	 火起こし(弓ぎり・火打ち石)
(イラストを書いても OK)	
感想	